

ギャップイヤー導入によるソーシャル・インパクト試算



出所：文科省「平成21年度学校基本調査速報 調査結果」

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/08121201/1282588.htm

JGAP調べ

I 大学導入での社会・経済的価値編（次ページ含む）

大学(学部)・短期大学(本科)の入学者数は68万2千人(前年度より3千人減少)。もし、この約10%の7万人が、Jギャップを体験したら、どのくらいの経済的波及効果を生むか、試算してみた。

ひとりが、6ヶ月（＝180日）の「ギャップイヤー」を体験したとする。
以下の3カテゴリーを2ヶ月毎に計6ヶ月体験した場合の経済波及効果。もし「就活期間」を半年短期化し、ギャップイヤーに振り替えた場合、これだけ日本に“生産的な”経済的価値と“生きた”時間が創出できる。

【試算計算式】

- ① ボランティア（例：限界集落、養護施設で体験）
 $7\text{万人} \times \text{時給}800\text{円換算} \times 7\text{時間} \times (60\text{日} - 15\text{日}) = 176\text{億}4\text{千万円}$
- ② インターン（例：農林水産業体験）
 $7\text{万人} \times \text{時給}1,000\text{円換算} \times 7\text{時間} \times (60\text{日} - 15\text{日}) = 220\text{億}5\text{千万円}$
- ③ 国内外留学
（国内） $3.5\text{万人} \times 2,000\text{円} \times 60\text{日} = 42\text{億円}$
※支出 （海外） $3.5\text{万人} \times 4,000\text{円} \times 60\text{日} = 84\text{億円}$

126億円の
経済価値

約4百億円の労働価値

海外は、シンガポールに代表される治安のよい国を中心とした提携大学への短期留学、1年留学。国内留学は、日帰りがしにくい地方の提携大学を想定。
※費用について ①②のプログラムについては、体験者の費用は発生しても軽微と考えられる。③については、個別要因が大きいが費用は体験者に発生する。

つまり、大学1学年の1割(約7万人)が9月入学にするか、「就活」を制度として4ヶ月間短縮できれば、ギャップイヤー(Jギャップ)体験ができる。福祉ボランティアや一次産業でのインターンを各2ヶ月間行くと、400億円の価値創造

約400億円の若者の“バリバリ”の労働価値が、社会的弱者に還元できる可能性がある。

1年半にわたる「就活」を4ヶ月縮めると、社会的弱者に「労働価値」を還元できる可能性がある。

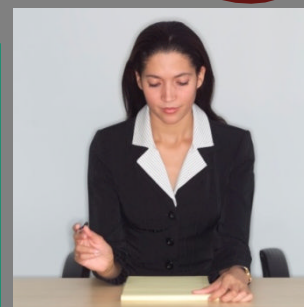
持って、「ギャップイヤー」で、意識高いテーマを生き方と社会の断面を発見できる

ギャップイヤー(4ヶ月プログラム)
一次産業インターンと福祉ボランティア



4ヶ月7万人
の振替で
400億円の
価値創造

日本に“生産的な”経済的価値と
“生きた”スキルと時間が創出できる。



就活・・・現状最悪1年半の疲弊する時間

例えば、長期の就活は、はたして生産的で健全でしょうか？今や、大学生の国際競争力の視座から、期間も議論すべき。

ギャップイヤー導入によるソーシャル・インパクト試算



JGAP調べ

出所：文科省「平成21年度学校基本調査速報 調査結果」http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/08121201/1282588.htm

Ⅱ 高校導入での社会経済的価値

最大5万5千人もの「目標喪失型」生徒に、使命感を提供する場になる

平成21年3月の高等学校卒業生数は、106万3千人（前年より2万5千人減少）。

驚くべきことに、卒業はするが、進学も就職もしていない層（注1）が5万5千人（注2）も存在する。これは、すなわち全員「ニートか引きこもり」という従来の概念では捉えられない、「働くでも勉強するでもない」「浮遊する」「目標喪失型」の生徒が多数いるということを示している。

「ギャップイヤー体験」は、生徒達が生きていくことの意義やすばらしさを考え、使命感と夢を構築できるチャンスを創出することになる。またニートや引きこもり自体の予防策につながる可能性がある。よって大学だけでなく、高校にも「高校生版」の導入を検討すべきだ。

（注1）家事の手伝い、外国の大学等へ入学した者、就職でも大学等へ進学や専修学校への入学等でもなく進路が未定であることが明らかな者

（注2）前年より1千人増加、卒業生に占める比率は5.2%（前年より0.3ポイント上昇）